

第Ⅳ部門

地域振興を目的とする奈良県広域観光交通システム提案とシステム論的分析

立 命 館 大 学 正 会 員 春 名 攻
 立 命 館 大 学 大 学 院 学 生 員 西 谷 陽 平
 立 命 館 大 学 大 学 院 学 生 員 萩 原 嵩
 立 命 館 大 学 大 学 院 学 生 員 ○ 宮 永 遼 資

1. はじめに

地域観光振興は、観光目的来訪者による各種の消費行動に対して、物産品販売や宿泊サービスをはじめとして各種の観光サービスの提供を行う観光産業の振興と、地域住民の幅広い雇用の創出といった2つの観点から大いに着目されている。また、歴史的施設や自然・風土をはじめとする地域資源が共存可能であるというメリットもあるので、近年、観光振興による地域経済・社会の再生・活性化の政策が注目されつつある。近年の地方都市における地域商業の事業者の高齢化の問題や、商業地開発・店舗施設整備資金の逼迫という状況を考えると、地方都市商業施設振興は大きな困難と課題を抱えており、新たに関連商業・サービス産業の創出は効果的な政策といえよう。

2. 奈良県観光の現況と課題

本研究の対象地である奈良県は、県北部を中心に大阪都市圏のベッドタウン化が進行している。一方、過去他府県と比較して新産業開発が遅れてきていた産業振興の動きも、遅ればせながら近年は高速道路をはじめとする地域基盤整備が進展してきており、奈良県独自の産業発展の推進が目指されるようになってきている。その産業振興の中でも、地域内雇用促進のための効果的な観光産業振興の施策が盛んに立案・実行されている。

この一方、過去の奈良県観光は宿泊観光客の割合が大変少なかった。歴史的施設をはじめ既存の地域資源・施設の観光対象は全国有数であるにも関わらず、観光地間の移動・回遊基盤が脆弱であることや宿泊基盤の中の宿泊施設数も少なく、せっかくの観光資源が活かしきれていなかった。

また、図-1にも示すように、奈良県は年間約3,500万人の観光客が県全土で広く分散的に訪問している。県の有する観光資源は、歴史・文化的

資源を中心に世界を代表する観光資源が存在しており、他府県と比較すると恵まれた環境にあるといえよう。交通条件としては、高速道路網および鉄道路線の整備により、他府県からの広域アクセス性に優れている。また、京奈和自動車道開通と幹線道路整備により、県内移動についても向上する見通しがある。

一方、地域内交通機関は、鉄道はJR西日本や近鉄鉄道が存在して、他府県に比べて有利な譲許言うであるが、観光地間の移動のための公共交通が非常に不便である。また、一般的に各観光地では駐車場が不足しており自動車利用もなかなか困難であると考えられる。

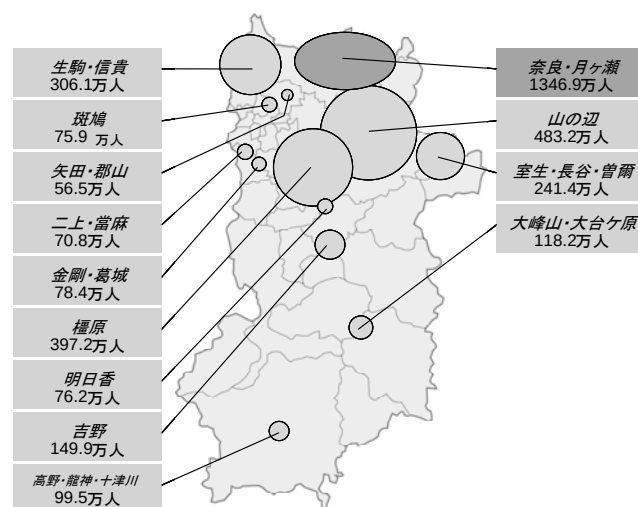


図-1 各観光地の年間観光入込客数

3. 本研究の目的と提案

本研究では、上述の観光振興上の課題を解決し、奈良県観光を促進するために、まず、観光地間を効果的・効率的に移動するための交通システムの導入を検討する。さらに、宿泊施設や商業施設、自動車訪問の観光客用のフリンジパーキングや電車利用者の利便を図るためのコミュニティバスなどの整備も提案する。事例研究では、観光行

動の拠点となる地域（本研究では大和郡山市を観光拠点として設定．観光拠点の概念図を図-2に示す．）を発着地とした周遊観光バスツアーを導入する．この導入において，観光客のニーズを反映したバスツアー設計を行うための方法を検討する．

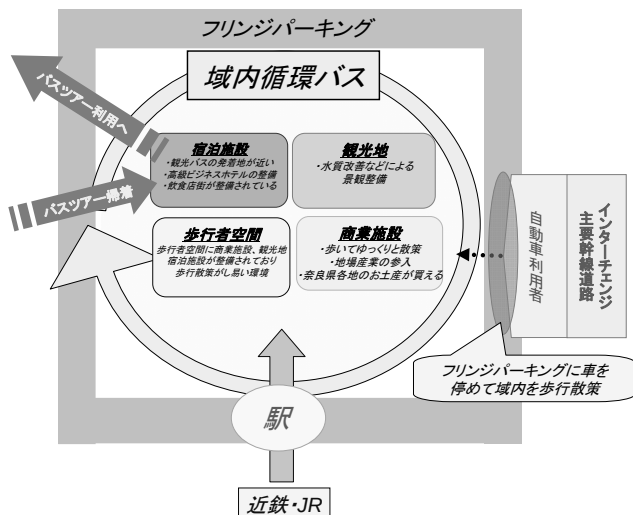


図 - 2 観光拠点構想の概念図

これら4つのタイプのニーズを取りまとめたものを表-1に示す.

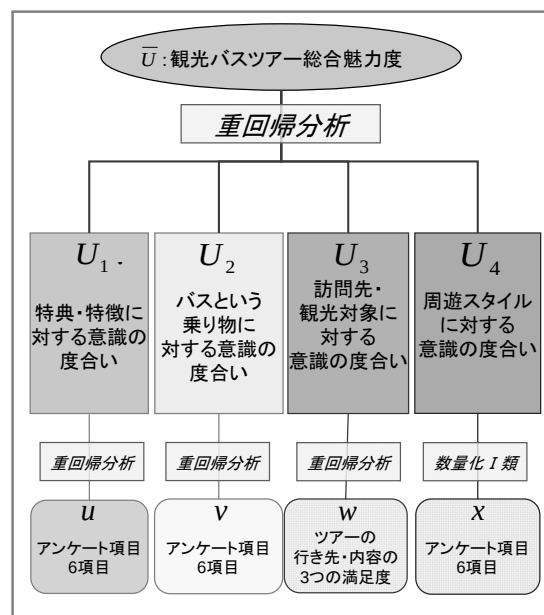


図 - 3 バスツアー評価に関する分析

4. バスツアー設計の概要

観光客がバスツアー利用を選択する際に、旅行者心理がバスツアーの魅力及び、バスツアーの評価に影響しているのかを把握することとした。

まず、奈良県を訪問している観光客に対し、アンケート調査（有効サンプル数 1217）を行い、この結果を用いてコレスポンド分析を行ったところ、バスツアーの意思決定に観光客の「年代」「同伴者形態」「居住地」等々の属性が影響しているということがわかった。そして、観光客の属性を以下のような4つのタイプに分類した。

- ①関西以外に在住の中高年層
②関西に在住の中高年層
③若年層
④中学生下の子供連れ

これらの4つのタイプのニーズに対応したバスツアーを設計することにより、観光客のニーズに対応した観光バスツアープランを設計することが出来ると考えた。属性毎に図-3に示す分析を行って、バスツアー評価に影響している各タイプの観光客が、どのような意向の元にバスツアーの評価を行ったかを把握することとした。そして、この結果をバスツアー設計に反映することにした。

表 - 1 タイプ①～④の持つ意向

	得られた意向
タイプ①	・『観光地内での体験・行動（飲食・買い物・温泉・学習など）』を強く意識している ・『季節特性を持つ自然・植物等の鑑賞・風景鑑賞』はあまり希望せず ・『歴史・文化施設、歴史性のある街並みの散策』はあまり希望せず ・周遊スタイル・サービス内容は全体の傾向と同様
タイプ②	・『観光地内での体験・行動（飲食・買い物・温泉・学習等）』を強く希望している ・『季節特性を持つ自然・植物等の鑑賞・風景鑑賞』はあまり希望せず ・『団体行動としての特典（特別体験・学習等）』を希望 ・『歴史・文化施設、歴史性のある街並みの散策』はあまり希望せず ・『知名度の高い観光地への訪問』を少し希望している ・サービス内容は全体の傾向と同様
タイプ③	・『季節特性を持つ自然鑑賞・風景鑑賞』を希望 ・『歴史・文化施設、歴史性のある街並みの散策』は希望せず ・『団体行動としての特典（特別体験・学習等）』を希望 ・『バスツアーでなければなかなか行くことのできないアクセス環境が整っていない観光地に行くことができる』ことを希望 ・『知名度の高い観光地への訪問』を若干希望
タイプ④	・『季節特性を持つ自然鑑賞・風景鑑賞』を希望 ・『歴史・文化施設、歴史性のある街並みの散策』はあまり希望せず ・『知名度の高い観光地への訪問』を希望 ・『数多くの観光地を周遊するスタイル』を希望 ・サービス内容については全体の傾向と同様

5. おわりに

本研究では以下の 2 点についての研究を行った。

①奈良県観光において、周遊観光行動を効率的に行うための観光交通システム導入の方策と、周遊観光バスツアーの設計方法を提案した。

②観光バスツアー利用に対する意向と、観光客のバスツアー選択時における意向が、どの程度バスツアーの利用意識に関係しているかを、各属性別に分析を行った。